



区民ドッジボール大会

2月12日(日) 小豆沢体育館

高学年の部は徳丸オールスターズが優勝
 低学年の部は桜川DBC・Bチームが3連覇!



緊張の瞬間

白熱の決勝戦

開会式での選手宣誓

<結果発表>

- 高学年の部 (小学5～6年生)
- 優勝 徳丸オールスターズ
- 準優勝 桜川ドッジボールクラブA
- 3位 北前野球ちゃん
- 3位 加賀小スターズ
- 低学年の部 (小学3～4年生)
- 優勝 桜川ドッジボールクラブB
- 準優勝 ふじみレボリューション
- 3位 加賀フォース
- 3位 ゴーゴー徳丸キッズ

今年大会は、低学年11チーム、高学年17チームの計28チーム、合計384名の選手が参加して、優勝を目指して熱い戦いが繰り広げられました。

年を追うごとに技術の向上は目覚ましく、低学年の部でも、ファールが少なく、速い球を投げ合い、それをしっかりキャッチ。目まぐるしく攻守が入れ替わる緊迫した試合が多く見られ、アリーナ2階の応援席からは、審判の笛が聞こえないくらいに大きな声援が飛び交い、体育館内は熱気に包まれ、大会は大いに盛り上がりました。

結果は、低学年の部は「桜川ドッジボールクラブB」が3連覇を達成、高学年の部は「徳丸オールスターズ」が、常勝「桜川ドッジボールクラブA」とのフルセットの接戦を制して優勝しました。

スポーツ推進委員は、この大会を円滑に運営するため毎月審判講習会を開催し、審判としての技量向上に取り組んでいます。

また、受付・記録・救護・放送・招集誘導・広報等の役割を分担し、大会が円滑に進むよう努力しました。

大きなケガもなく、無事大会を終えることができてホッとしています。

2017 板橋 City マラソン 3月19日(日) 日本陸上競技連盟公認

今年第20回の記念大会となり、ゲストは昨年引き続き土佐礼子さんと、新たに瀬古利彦さん、増田明美さん、秋山清仁さん、アネネバラリンピックの金メダリストである高橋勇市さんと豪華な顔ぶれとなりました。

参加者は全体で約1万6千人超、うちフルマラソンだけでも約1万5千人という大盛況ぶりでした。好天に恵まりましたが、風が強い時間帯があり、フルマラソンでは帰路が向かい風となりランナーを苦しめました。レースはトップと2位がわずかに7秒差でゴールするという熾烈なデッドヒートで観客を楽しませてくれました。

メイン会場では各競技の表彰式のほか、瀬古さんと増田さんのトークショーや各団体によるパフォーマンスなどが行われました。会場全体では協賛企業・団体によるブース・飲食店や、初の出展となる足湯が大人気で、競技に参加しない人も楽しめるイベントでした。今後も2020年に向けて、ますます盛り上がっていくことを期待します。



【救護班】救護班は9名で担当しました。ゴール後に足など疲労して歩けないランナーを救護所に搬送しましたが、大きなケガなどは無く、風が強い状況でしたが無事に終わりました。

東京都地域スポーツ支援研修会

高輪区民センター 1月28日(土)

講義では「ロンドン・リオのオリ・パラ大会に学ぶスポーツ実施率70%に向けたスポーツに親しむまちづくり」をテーマに原田宗彦氏(早稲田大学スポーツ科学学術院教授)の講演がありました。

内容は、スポーツの振興をするにはスポーツに親しむまちづくりが必要で、思わず歩きたくなる、走りたくなるまちづくりを行い、緑豊かな環境で平均寿命を全うするようにしていきたいと思います。

トークセッションでは、「2020年大会以降の地域スポーツを考える」をテーマに、新宿区、台東区、大田区、杉並区、江東区のスポーツ推進委員の登壇者が、各区の現状や活動、取り組みについての発表がありました。



【江戸川支部】例年より気温が高く、救急搬送が増加すると予測していましたが、ゼロでした。しかしリタイア者数は例年の倍近くとなりました。支部の皆様のご協力のおかげでトラブルもありませんでした。

【墨田支部】強風の大会になりましたが、救護にあたりましたスポーツ推進委員は、選手を励まして再走させたり、時に救急車搬送もありましたが、リタイア選手の介添えをしたり、頑張りました。

【堀切支部】スポーツ推進委員は3名での活動でした。救護所のスタッフはランナーに熱い声援を送っていました。人が人や体調の悪くなった人が来た時には、一致団結して対処しました。

【西新井支部】天気に恵まれ、いつもより気温が上がったせいか、復路の棄権者が昨年よりかなり多く感じました。6名のスポーツ推進委員のチームワークで従事できたと思います。

【足立支部】復路33km付近に位置し、ランナーが体力の限界と闘いながらぎりぎりゴールを目指す地点で、医療スタッフと共にスポーツ推進委員も全力でランナーを後押しし、力を合わせて頑張れたと思います。

【北支部】往路3・6km復路38・6km地点に位置し、行きはフオローで帰りはアゲパストの風でのラストスパートでした。ランナーには厳しい暑さとは思いましたが比較的落ち着いた一日でした。

【誘導班・浮間舟渡駅等】電車が到着する度、数百名のランナーが会場へ向かっていきました。警察等の協力もありスムーズに誘導出来ました。昼過ぎからは救護の応援に入りました。強風でしたがリタイアしたランナーは少ない気がしました。

【表彰班】ステージ前に集まった方と、立位と座位のふるさといたばし体操から楽しくスタートしました。表彰式では各種目受賞者が、区長をはじめ表彰プレゼンターとゲストの瀬古利彦さん、増田明美さん、土佐礼子さんなどと記念撮影をしました。

東京マラソン2017 2月26日(日)

今年の東京マラソンでは、大会本部から板橋区スポーツ推進委員へのボランティアの依頼が、前回の19名から5名に減り、東京マラソンへの一般ボランティアの人数が高いことがわかります。穏やかな春の日差しの中、フィニッシュの東京駅付近を目指して、登録ランナー・一般ランナー合わせて3万6千人が走り出しました。

すい勢いで通過する登録ランナー、仮装に工夫を凝らして走る一般ランナー共に、沿道から大きな声援を受けていました。板橋区スポーツ推進委員の5名は、スタートしてから5・78km地点の飯田橋交差点のコース整理員として、コース上のランナーの安全確保を一番に、観衆のコースへの立ち入りや物の投げ入れ防止と、コースを横断する人を歩道橋や地下道に案内をしました。

そのほか、車両の乗り入れ規制の開始・終了の合図に合わせて、コーンバーの設置・撤去や、ゴミの回収をしました。多くのランナーは、コース整理員が持っているゴミ袋に捨てて走り行きます。最終ランナーが通過してから、沿道やコース上のゴミ拾いをしましたが、コース上に落ちていたゴミは少なく、大勢のランナーが走り去った後とは思えないほどきれいでした。



ランナーを見守るコース整理員

平成28年度課題別研修会 調布市文化会館たづくり 12月17日(土)

「東京オリンピック・パラリンピック教育」とスポーツ推進委員の関わりについてをテーマに折本昭一氏(東京都教育庁指導部オリンピック・パラリンピック教育主任指導主事)の講演がありました。

内容として、都内の小中学校では、年間35時間オリリンピック・パラリンピック教育について授業を行っています。教育プログラムの愛称を「ようい、ドン」とし、東京2020大会を、子供たちの人生において重要な機会と捉え良いところを伸ばし、弱いところを克服するための取り組みを推進するという事でした。

その後、大塚雅一氏(墨田区スポーツ推進委員協議会副会長、千本木勘博氏(小金井市スポーツ推進委員協議会顧問)の二人から活動や取り組みなどの事例発表がありました。どちらも授業の時間を使って学校で教育支援を行っていたとのことでした。それらの活動を通じてボランティア精神や、障がい者への理解など教育支援をしていくことは大切であると思えます。

Advertisement for PRIMULA NPO法人志村スポーツクラブ・プリムラ. Includes the club logo, a photo of a woman, and text describing their 10th anniversary and activities. Contact information for the president, Asami Asami, is provided.

ゲーム設定

1 チーム 4 人で構成された 3 チーム対抗。コートサイズは 18~21m×18~21m、正方形でなくても OK。1 ピリオド 1 3 点制で、2 ピリオド以上で構成される。ルールは参加者の年齢・経験・体力などの条件に応じて一部変更することが認められています。

ゲームの流れ

- ① じゃんけんなどでヒット権（サブ権）を決めます。ヒットを得たチームは、コートの中央につき、ヒッター以外の 3 人がボールを支えます。それ以外の 2 チームは、コート内すべてを守るよう守備につきます。
- ② ヒットチームの 1 人が「オムニキン」と大きな声で言い、続けて相手チーム（ゼッケンの色）をコールしてから腰より上の部分（手や腕など）を使ってボールをヒットする。
- ③ コールされたチームは、ボールを床に落とさないようレシーブします。レシーブは、全身どこを使っても OK。レシーブを失敗すると他の 2 チームにそれぞれ 1 点ずつ得点が入ります。
- ④ レシーブに成功したら、ボールを持って走っても仲間にパスしても OK。今度はレシーブしたチームが②と同じようにヒットします。その繰り返しです。

反則について

・ヒットの反則

セットされていない状態でヒットを行った場合
 打つ前のコールを間違える、または声が小さすぎて審判にも聞こえない場合
 ヒットしたボールが 1.8m 以上飛ばなかった場合
 ヒットしたボールが水平方向より下向きに飛んだ場合
 ヒットしたボールが誰にも触れることなくコート外に飛んだ場合

・レシーブ時の反則

両足がコートから出た場合

■いずれの場合も、反則したチーム以外の 2 チームに 1 点ずつ入ります [日本キンボール連盟HPより抜粋しました]



今年度も、さまざまな行事やニュースポーツに取り組んできました。
 板橋 City マラソンは 20 回記念のため大きく取り上げ紹介いたしました。次年度も、様々な内容を皆様にお伝えできるように、取り組んでまいります。
 今回はモノクロ版ですがホームページではカラー版をご覧いただけますので、よろしくお願いいたします。

編集後記



板橋区スポーツ推進委員 実技講習会

レポート

突撃

スポーツ推進委員の講習会取材します

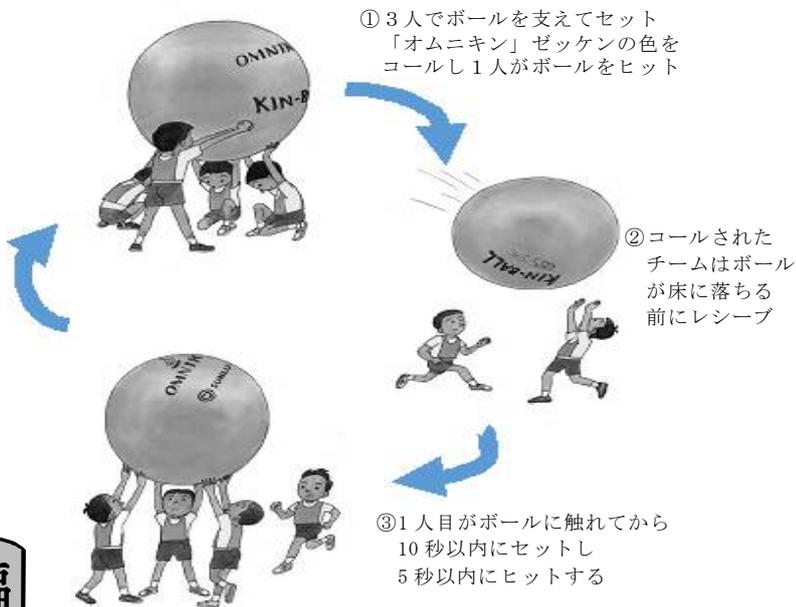


11 月実技講習会

キンボール

「キンボール」は直径 12.2 cm、重さ約 1 kg という巨大で軽いアドバルーンのようなボールを床に落とさないよう、チームで協力し合う競技です。キンボールの「キン」は英語の「キネシス」＝「運動感覚／感性」の略語で運動の感覚を楽しむボールゲームです。運動神経を磨いたり競ったりする記録主体の競技でなく「励まし、助け合い、感動の共有や協調性を高める」ことを大切にするスポーツです。

キンボールの魅力は簡単なのに奥深く小学生でもすぐに覚えてプレーが楽しめます。1 つのボールを 4 人で支え合ううちに自然と一体感が生まれてきます。老若男女、それぞれの体力に合わせて楽しめる、スピードと戦略性に富んだ奥の深い大変魅力的なスポーツです。29 年度はキンボールにも力をいれ、板橋区内で普及活動を行います。



お知らせ

第 21 回いたばしウォークラリー大会
 5 月 14 日(日)
 常盤台地区で開催します

詳細は「広報いたばし」でお知らせいたします

いたスポは、各地域センター・区立体育館で入手いただけます

お問い合わせ 区民文化部スポーツ振興課 TEL 3579-2652